

三月二十四日つづき

九時半五反田TOCTOMOコーポレーション。社長打合わせ。新木場は大づめ。猪苗代を四月より施工開始となる。十二時前研究室。うどん屋で素うどんの昼食。十三時教室会議。主任より四月より石山は長期休暇となる事が述べられた。かと言って何処へ行くでもなし、学校には来るけれど、校務はやらないからね私。夕方、デービッド、アベル等と森の学校の本格的スタディを始めた。新しいプロジェクトは楽しい。まだまだアイデアはビシビシ湧いて出るな。

三月二十五日

六時起床。今日は再び沖縄へ。委員会に出席のため。十時三〇分目覚めれば、雲の上。ANA一二三便機中である。離陸したのを覚えているような、忘れていたような、夢うつ。十一時半那覇空港着。国建宮城部長と大宜味村へ。印鑑を又も忘れて、那覇でスーパ―や文具店三件探すも、「石山」は無し。羽田空港でも無かった。小さな事だが気になり始める。ようやく名護市役所横のハンコ屋で「石山」を発見。沖縄では馴染みの薄い名字なんだ。今日は沖縄での委員会の最終日なのだ。十四時半大宜味村着。尚弘子先生に再会。十五時定刻通り委員会始まる。冒頭で十五分ワークショップからの提案、及び回収したアンケートより、皆さんの意見等を要約して紹介する。全ての提案がうまく報告書に組み

込まれていたもので、私は敢えて発言しなかった。これで、ワークショップは一段落。参加者の皆さんの努力が何かの形になると、本当に良いのだが。希望を持って、しばし待とう。十七時委員会終了。ラダックのコーヒーに心ひかれたが帰りの飛行機便もあり、断念する。又、来れるかな。たそがれの中を那覇へ。昔はこういう、たそがれの空の下動いたりすると妙にセンチメンタルになったりしたものが、今ではそんな頃が懐かしい。そういえば昨日から佐藤健といつだったか対談した、五合庵と良寛に関するゲラを読んで、あの頃の健さんはさえていたな。ゲラを読んでいるとそれが解る。あの人は語りが良かったのを今更のように思い起こしている。しかし、あの原宿の何処かでの対談のあと、健さんと飲んだ覚えがないから、健さんは何か用事があったのだったかもう忘れられた。

佐藤健とは酒を良く呑んだ。呑んで話しているのが楽しかった。何よりも健と話していると建築を忘れる事ができた。建築から自由になれたというのが正確か。佐藤健は闘病の果てに死んでしまったが、彼は末期の頃はわずかではあったが自由になっていたな。今、二十一時、二〇時十分那覇発の便で東京に向っているうちに急に佐藤健を思い出してしまっている。人は思い出す毎に生き返る。四月五日は何処にも出掛けずに東京にジツとしていよう。動いて何かが見えてくる時節ではないし、無駄はできるだけそれでゆきたい。できるかな。二十一時四〇分飛行機は次第に高度を下げ始めている。今日中に世田谷村に帰れるかもしれないな。

三月二十六日

夕方、若松社長来室。ロシアの話しを聞く。一度モスクワに出掛けるかな。動かないと決心したつもりなの

に。

三月二十七日

十一時五反田トモコーポレーション。猪苗代湖鬼沼のサイトに五月タイの高僧が来訪することになった。国際的なメディア・センター建設の話が現れそうだ。夕方より、幸脇さん一家と打ち合わせ。

三月二十八日 日曜日

何もしないで過した。「おたくの精神史」大塚英志ほぼ読了。ほぼと言うのは後半は飛ばし読みにした。おたく業界内オタクの小史の趣あり。噂の真相が休刊になるようで、別冊追悼版は精読した。岡留編集長的な精神はわかる様な気がする。少し重い足取りの、ヒット・エンド・ランなんだ。しかし、大方の人はヒット・エンド・ランを人生に一度しか出来ぬ不自由さの中に在るか、妙にその一回性がベツトリ、眼に写りかねないのだ。